

評価領域	特色ある教育課程
------	----------

重点目標	地域と共に育ち、地域に貢献する学校づくりの推進	P
現 状	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域資源を活用した花輪ばやしへの参加や複数回のスキー教室の実施、小規模校のよさを取り入れた全校縦割り活動によるりんごの栽培をはじめ、学部単位による地域貢献活動や交流及び共同学習など、特色ある教育課程を編成している。 2 毎年、東山学園生が約3割程度在籍しているが、年々児童生徒数が減少している。その一方で、発達障害を併せ有したり、家庭・養育環境に課題のある児童生徒が増えたりしている。 	
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「街は大きな教室だ」を合言葉に、地域資源（自然・人・モノ・文化等）を活用した活動や全校縦割り活動を通して、児童生徒に本物の体験や感動を与えたり、相手を思いやる心の育成に努める。 2 「かづの校に行ってみよう、体験してみたい」と思えるように、地域にかづの校の魅力を発信したり、教育委員会等の関係機関との連携を強化したりして児童生徒数の維持に努める。 	
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 マンネリ化を防ぐために、「りんごプロジェクト」のねらいを全職員で再確認するとともに、全校体力づくりの他に、新たに全校一斉に行なう活動を取り入れる。 2 「児童生徒増プロジェクトチーム」を立ち上げ、リーフレットの作成と配布、障害理解授業の実施、特別支援学級のなかよし交流への参加など、積極的にかづの校の魅力をPRする。 	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 「りんごプロジェクト」は、全校4グループに分かれてりんごの袋掛けから収穫、被災地へのプレゼントまで、高等部生がリーダーシップを発揮した。初めてりんご栽培農家の先生を招いてりんごの収穫感謝祭を開催した。「挨拶・掃除日本一」の取組に合わせて、全校8グループに分かれて校内をきれいにする「ピカピカタイム」を設定して、頑張った児童生徒を全校集会で表彰した。 2 各学部の魅力や進路指導の取組を紹介するリーフレットを作成し、鹿角・小坂地区15か所の公共機関に常時置いた。9月下旬には副校長が特別支援学級のある中学校を訪問して高等部の取組を紹介したり、電話で進路状況を確認したりした。また、教育相談後に教育委員会に様子を伝えたり、鹿角出張所の指導主事と連絡を取り合ったりして情報収集を行った。 	

達成状況	<p>1 「ピカピカタイム」を取り入れたことで、子ども同士の関わりが増え、上級生は下級生に対する思いやりを、下級生は上級生の活躍する姿を学んでいる。8割以上の職員からよいという評価を得た。</p> <p>2 11月の教育支援委員会開催の前に新入生の情報収集ができた。中学部7名（昨年度4名）、高等部8名（昨年度4名）と、昨年度よりも新入生の数が増えた。</p>	
------	--	--



自己評価	<p>(評価) A</p> <p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校縦割り活動を通して、上級生が下級生を抱っこしてりんごを取ったり、上級生のほうきの使い方を下級生がまねしたりするなど、子どもたちの成長が感じられた。 ・地域の優れた知識や技能を有する方を授業に活用するために「かづの校アップルサポーター」を立ち上げた。 ・リンゴレンジャーの活動が認められ、秋田県高等学校PTA連合会より、「善行賞」を受賞した。 ・家庭の都合で在校生2名が他県に転入することになり、全体的には3名減であるが、新入生の児童生徒を増やすことができた。 	C
------	---	---



学校関係者評価と意見	<p>(評価) A</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は地域の人に知ってもらうこと、活用してもらうことが大切である。これからも地域との交流を通して、子どもたちを育ててほしい。 ・地域に学校の活動の様子を発信できている。それが子どもの成長につながっている。 ・共生社会の実現に向けて「違い」を受け入れる学校・学級づくりを推進するために、障害理解授業や高校生ボランティア養成講座の取組は意義がある。 ・職業教育フェアでの生徒の発表が堂々としていた。企業主の方にも見てほしかった。 	C
------------	--	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の花いっぱい運動や清掃活動、リンゴレンジャー公演、花輪ばやしへの参加など児童生徒のできることを通して、更に社会的な存在価値を高めていく。 ・交流及び共同学習は、できる範囲で複数計画する、事前・事後の打合せをする、対等な関係で交流するなど、量より質の充実を図る。 ・児童生徒の自己肯定感を高めるために、職業教育フェアに加えて、スポーツ大会や絵画等のコンクールにチャレンジする機会を作ったり、校内では〇〇名人や技能検定〇級などを設定したりする。 	A
-----------------------	--	---